

1. 感染症速報（壱岐地区）

令和7年8月25日作成

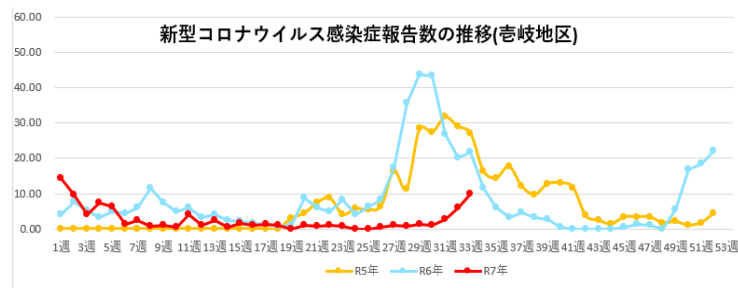
2025年 第33週 8月11日				～	8月17日				作成元:長崎県壱岐保健所 企画保健課	
疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	
インフルエンザ		RSウイルス 感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		急性呼吸器 感染症(ARI)		
警戒:開始30 終息10	0.00	警戒:開始 - 終息 -	0.50	警戒:開始3 終息1	0.00	警戒:開始8 終息4	0.00	警戒:開始 - 終息 -	32.33	
感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑 (リンゴ病)		※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI) ※定点数2:上記以外の疾患		
警戒:開始20 終息12	2.50	警戒:開始2 終息1	0.00	警戒:開始5 終息2	0.00	警戒:開始2 終息1	1.00			
突発性発しん		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)		新型コロナウイルス 感染症		※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなども含まれ、報告数は重複します。		
警戒:開始 - 終息 -	0.00	警戒:開始6 終息2	1.50	警戒:開始6 終息2	0.00	警戒:開始 - 終息 -	10.00			
	発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警報レベル】			
※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。										

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフル:10 水痘:1 その他は設定なし。

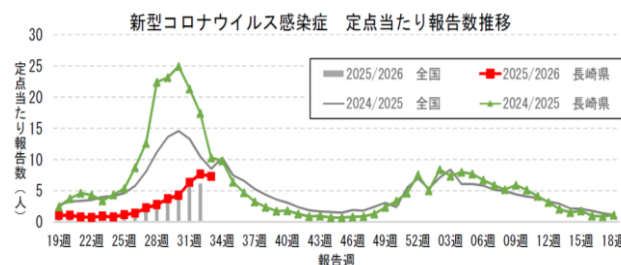
2. トピックス

★新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

壱岐地区における定点当たり報告数は、第31週：2.67、第32週：6.00、第33週：10.00と増加傾向にあります。
長崎県における第33週の定点当たり報告数は「7.27」でした。地区別では、対馬地区（12.67）、上五島地区（11.33）、壱岐地区（10.00）が多くなっています。年代別にみると、10歳未満（14.8%）、70代（13.7%）が多くなっています。
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。



※詳細は、長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」をご覧ください。

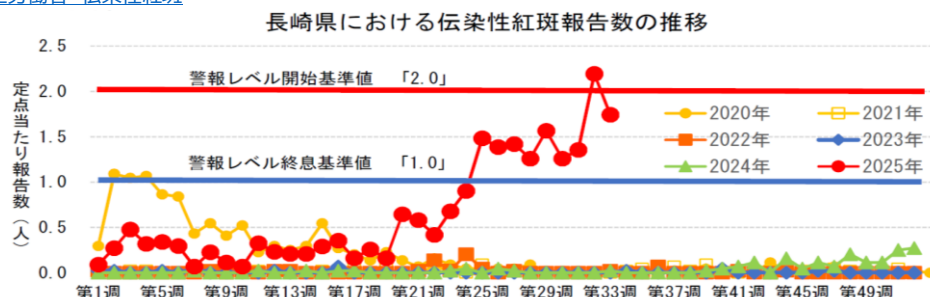


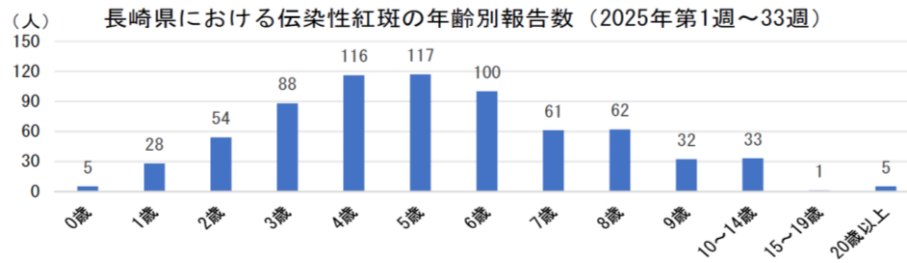
★県内で伝染性紅斑（リンゴ病）が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

県内の2025年第33週の定点当たり報告数は「1.74」で、2週続けて警報レベルの報告数となりました。
地区別でも、佐世保地区（3.75）、県央地区（2.80）、県南地区（2.67）、長崎地区（1.83）は警報レベルの報告数となっています。
壱岐地区においては、第31週：0.50、第32週：0.50、第33週：1.00で推移しています。
感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるとわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

（参考）厚生労働省 伝染性紅斑





★麻しんに注意しましょう

第33週時点での県内の発生報告はありませんが、福岡県では令和7年8月以降、5例の麻しん患者が確認されており、今後更なる感染拡大が懸念され、注意が必要です。

麻しんとは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、①発熱、②全身の発しん、③咳、鼻水、目の充血などが主な症状です。麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強いと言われています。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人程度の割合で脳炎が発症します。稀に（10万人に1人程度）、麻しんウイルスに感染後、数年から十数年後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる知的障害や運動障害などが進行した後、数年以内に死に至る中枢神経疾患を発症することもあります。

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得することができると言われています。定期接種対象者、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種をご検討ください。

[（参考）麻しんについて（厚生労働省）](#)

[（参考）福岡県麻しん発生状況](#)

★夏に流行する感染症に注意しましょう。

夏は病原体を媒介する蚊やダニの活動が活発化します。こうした害虫に刺されると、“蚊媒介感染症”や“ダニ媒介感染症”といった動物由来感染症にかかる危険性が高まります。特に、チクングニア熱は、複数の国で発生が報告され、本年7月には、中華人民共和国での患者急増に伴い、外務省から渡航者向けに注意喚起が行われ、今後、輸入症例の増加等が懸念されており、注意が必要です。

また、例年夏には、新型コロナ、夏風邪の代表である手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱などについても増加する傾向にあります。

新型コロナ等をはじめとした感染症の感染予防には、手洗い・手指消毒、マスクの着用を含む咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が有効であり、帰省等で高齢者と会う場合や大人数で集まる場合は、感染予防を心掛け体調を整えるようにすることが重要です。厚生労働省から公表された、下記「夏の感染対策ガイド」もご一読いただき、楽しい夏をお過ごしください。

[（参考）厚生労働省 海外へ渡航される皆様へ](#)

[（参考）蚊媒介感染症について](#)

[（参考）夏を安全に楽しもう！ 感染症対策ガイド](#)